

第 38 回中井町地域公共交通会議 議事録

日時：令和 5 年 3 月 16 日（木）10 時 00 分～11 時 55 分

場所：中井町農村環境改善センター 2 階 研修室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 町長あいさつ
- 4 協議事項
 - (1) 中井町地域公共交通計画中間報告書（案）について
- 5 報告事項
 - (1) 中井町地域公共交通計画策定の策定スケジュールについて
- 6 その他
- 7 閉会

【協議事項の議事】

- 4 協議事項
 - (1) 中井町地域公共交通計画中間報告書（案）について
 - 資料 1 により事務局より説明。
 - 会 長：資料 1 についてご意見をいただきたい。
 - 委 員：「交通結節点の機能強化による公共交通機関同士の相互連携の実現」について、路線バスとデマンドとの連携なのか、他の交通機関との連携なのか。
 - 事 務 局：現状ではオンデマンドバスと路線バスを想定しているが、福祉有償運送等からもいかに路線バスを利用してもらおうかという点で、交通結節点の機能強化が必要であるという意図で記載している。
 - 委 員：中村上では路線バスも廃止になっており交通空白地域も多いが、これを解消するための具体的な取組は考えているのか。
 - 事 務 局：現時点では交通空白地域で新たな乗物の導入等、特別なものは考えていない。来年度はオンデマンドバスの利用者に意見を聞く機会を設け、交通空白地域を中心に皆様の意見を聞きながら、オンデマンドバスの運行形態を含めて検討していきたい。
 - 委 員：中村上地区と井ノ口地区では要望のレベルが違う。中村上は切迫しているが、井ノ口では例えば買物だけでなく他の行先も行きたいと思っているのではないかと。要求レベルの違いを考慮して検討していただきたい。カーボンニュートラルも考えるのであれば EV 車も考えてみては如何か。
 - 委 員：一人当たりオンデマンドバスの費用は当初 5,000 円程度だったが 10 年で 3,000

円台まで下がってきている。当初事業者がバスを購入したと思うが、5年の償却が完了したから費用が下がっているのは分かるが、更にデマンドを効率化すれば財政負担は減るのではないかと。車両を更新するには費用がかかると、また行政負担額が高くなると思うが、計画には記載されていない。

オンデマンドバスは大前提として路線バスを補完する意図があると思うが、果たして路線バスが今後中井町で運行できるのかどうか。接続地区として井ノ口と公民館としているが、商業や病院、役場機能があれば良いが、果たして実際にできるのか、実態と見合っていないのではないかと。

福祉運送有償は、町の助成金をもらいながら運行しているが、不足分は年末たすけあいや年会費から捻出している。高齢者は年々行動の時間が掛かるようになってくるので、同じ時間で送迎できる人も減るのではないかと。高齢者にやさしい利用手段などを配慮して計画に盛り込んでほしい。

事務局：路線バスについてはどの駅まで行くのにも時間が掛かるのは承知しているが、基本的な目標としては減便をせずに維持していきたいと考えている。そのために交通結節点の充実等を図っていききたい。福祉有償運送について、令和5年度で具体的な事業を検討すると定めるので、事務局としても検討していきたい。

会長：仰られた内容は実施事業2に掲げられているが、他の記述と比べて少ない印象はあるので、社会福祉協議会と何ができるかを協議して、どのような移動を提供するのが良いのか、より役割分担の内容を具体化して検討していきたいと考えている。路線バスについては就業者も含めて利用者を増やしていくとしているが、バスの利用者が増えれば好循環になってくるので、できることからやっていきたいと考えている。

委員：オンデマンドバスは乗合率が低いと、せっかく出かけたから他の場所にも行きたいといった需要があるのではないかと。以前は1回の予約で1人という認識であった。高齢者の移動支援について町ホームページへ掲載しても、高齢者や交通弱者はあまり見ないと思うので、もう少しPR方法を考えて欲しい。オンデマンドバスを利用しない理由として「運転できなくなったら利用する」が多くなっているが、車利用者も使えば環境にもよくなる。

事務局：PRについては年齢層によっていろいろな媒体があるので、事業の中で検討していきたい。

副会長：オンデマンドバスは当初から乗合を実施しているが、目的地の方向が違う場合は、乗合運行が難しい場合もある。

委員：乗合率と予約方法の関連は何か考えているか。個人が目的別・時間ごとに予約する形となっているが、定期的に巡回していれば乗合することもあるのでは。

委員：境地区の小学生が中村地区への登下校時に乗合があるというだけでないのか。

事務局：実態としてはそうなっているが、別々の人が乗合になることもある。

事務局：オンデマンドバスについては、デマンドのほか定時定路線の要望も頂いているので、5年の計画の中でどういった運行方法が良いのか、検討していく。

- 委員：今までも毎回アンケートで予約方法や駅への移動要望が書かれているので、ぜひ検討してほしい。
- 事務局：前述したが、令和5年度で利用者に直接意見を伺う機会を設けるので、意見や提案を聞きながら方向性を検討していきたい。
- 会長：中井町は住んでいる場所と行先が別々であり、共通の目的地がないので乗合率がどうしても高くない。例えば決まった曜日・時間に地域の住民が買物と一緒に行くような需要があれば、乗合率も向上する。定時定路線にしても利用が伸びないと思い、かえって非効率になる場合もあると思慮する。
- 委員：時間帯によって利用目的が違うので、時間帯によって運用形態を使い分ければいいのか。
- 会長：特定の時間に特定の場所への需要など、明確に目的が分かれば上手くいくが、現状では難しい。
- 委員：主要なスーパーはアオバであるが、特売日への買物バスなど、連携した取り組みができればいいのではないか。
- 委員：中村地区はアオバに行くにしても乗り換えが必要。オンデマンドバスが便利に使えるようになれば買物利用も増えるのではないかと。
- 会長：デマンドの最終目標が難しい。行政負担が下がればいいのは確かであるが、例えば路線バスを乗れる人は路線バスを使うようにしてもらえば、デマンドの予約が取りやすくなり利便性が上がるといった考え方もできる。乗合率の高い通学時をどうするかといった検討も必要になると思います。
- 委員：中間報告書についてはこのまま計画書になるのか。事業者アンケートの表現を要約することなくそのまま記載するのか。
- 事務局：様々な計画書のスタイルがある。事業者から希望があれば要約する等対応が可能であると思慮する。
- 委員：検討区域は足柄上郡5町なのか、その場合は他市町村との連携とした計画になる場合もあるので確認したい。
- 事務局：具体的なものはないが、実態としては生活圏として秦野、二宮が多く、足柄上郡5町でも大井町も含める程度かと考えている。
- 委員：国交省では公共交通は営業ナンバーの自動車としているので、福祉有償運送等は「補完交通」にしてほしい。また、オンデマンドバスについては乗り切れていないという状況があるのか。
- 事務局：現状では乗り切れないという事態は起きていない。
- 委員：事業者のアンケートについては詳細な意見も多いので、一般の方に触れる中で必要ない部分は削除する必要があるのではないかと思慮する。
- 事務局：趣旨がわかる内容で抜粋する方向で検討します。
- 会長：アンケートの詳細記述については一任頂くとして、その他の部分については承認でよいか。
- ※特に意見なし

5 報告事項

事務局：参考資料1について説明

6 その他

事務局：参考資料2について説明

橋山委員：配布資料について説明

会長：その他発言がなければ進行を事務局にお戻しする。

以上